

静岡県の両生類展 開催報告

高田 歩



水槽がズラリと並ぶ



展示を楽しむ来館者

2017年8月5・6日（土・日）はふじのくに地球環境史ミュージアムのミドルヤード（1階 講座室 B）にて、静岡県内に生息する両生類全 20 種の展示を行ないました。今回の展示は、2017 年の日本両生類研究会のフォーラムと同時開催することで、研究会に来られた方だけでなく、一般の来館者にも見ていただけるようにと開催しました。この展示を行なうためにご協力いただいた多くの方々に、この場を借りて心から感謝いたします。また、静岡新聞の記事に取り上げてくださった記者の石井様にも厚く御礼申し上げます。

たった二日間の開催で、多くの方から大変惜しまれた両生類展ですが、その展示の裏側には様々なドラマがありました。「博物館の展示だから、標本はすぐに揃ったんでしょ？」とお思いの方もいるかもしれませんが、特定外来生物のウシガエルを除く 19 種は全て生きた状態で展示しました。これは、展示の総指揮を務めた当 NPO の佐々木さんが、生き生きとした姿の両生類を見せたいという強い思いのもと、標本が主役の博物館としてはインパクトのある生体展示を主役としたためです。それにともなって、標本と生体の双方への影響に配慮し、2 日間だけの開催としました。県下での採集に奔走した話については、本号の佐々木さんの記事をご参照ください。

見どころは生体展示だけでなく、三宅副理事長のフィギュアコレクション、アズマヒキ

ガエルやアカハライモリ、ハコネサンショウウオなどの全身骨格標本、両生類に関する書籍の数々、選りすぐりの生態写真と映像、さらには、静岡市で小学生の頃からモリアオガエルの研究を続けてきた竹内さん（現在、高校生）の研究論文 6 年分などたくさんありました。ちなみに、一日目に流していた映像は、特別講演をなさった國領さんが撮影したもので、二日目の映像は竹内さんが撮影したものでした。

最後に、開催中に耳に届いた来館者の反応をセリフ形式で紹介します。「カエル！生きてるよ！」「ヒキガエルって大きいんだね」「これ、家の窓にいるカエルかな？」「見て、骨もあるよ！どうやって作ったんだろう」「カエルとイモリは知ってたけど、サンショウウオって存在すら知らなかった」などです。質問には、「自由研究でカエルを調べたいけど、捕まえてはいけない種類がいるの？」「ナガレタゴガエルとタゴガエルは何が違うの？」「ダルマガエルとトノサマガエルは何が違うの？」「シユレーグルアオガエルって日本のカエルなの？」「この中で絶滅の危機にあるものは何？」などがありました。

今回の展示を通して、今後は標本や資料だけの展示でも同じが、それ以上に興味を持ってもらえるように、展示を作っていくたいと改めて思い、開催側としても学ぶところの多い展示となりました。